

ミハル通信が3年ぶりケーブルテレビテクノフェアに出展、FTTH関連機器をPR



ミハル通信のブース

ミハル通信は17日、大阪市中央区のOMMビルで開催されたケーブルテレビ（CATV）関連の展示会で、FTTH（光ファイバ）関連の機器各種を出品、効率的なFTTH移行をCATV事業者に訴求した。

同社が展示したのは1日だけの「ケーブルテレビテクノフェアin Kansai 2023」。3年ぶりに開催された。

同社の展示品は、中規模から大規模のCATV事業者向けの光ファイバー増幅器やサブセンター局を必要とせず最大60キロメートルの長距離伝送が可能で小中CATV事業者に最適のFTTH中継装置、従来の増幅器と置き換えることでHFC（光ファイバと同軸ケーブルの併用）の巻線性能を高めるAC100V屋外型光受信器。どの製品も、FTTHへの移行を効率的に実現する。そのほかにスマホやPCなしでもテレビを使って動画配信を可能にするハイブリッドキャスト（HC）動画配信システム。

同社によると、関西の大都市圏はFTTH化が進んでおり、次の照準は幹線網から離れた地域。特に世帯数の少ない地域のCATV事業者は、どれだけ低コストでFTTHへ移行できるか可能性を探っているのが現状。

そうした事業者にいかに適切なソリューションを提案できるかが、今回の展示の狙いでもあるという。

近畿総通局長も熱心にミハルブース視察

域内のCATV事業を管轄する総務省近畿総合通信局の井上知義局長も同社ブースに立ち寄り、説明を受けていた。

CATV事業を行っている地方自治体は、設備の運用や更新の費用面で苦境にある。自治体のCATV事業を助成する立場として同局長も、低コストでFTTHへ移行する手段に関心を示したようだ。